

3年生の合唱

10月22日（土）に、王梨音祭「合唱コンクール」が開催されました。新型コロナウイルス感染症対策を考慮して、やむを得ず学年ごとの開催としました。

まずは、1年生です。体育館に入場するときからずっと立派な態度でした。実行委員の皆さんも、名前を呼ばれると大きな声で返事をしていました。話す内容も態度も堂々としたものでした。

各クラスの合唱は、それぞれのカラーが出ており、どのクラスも指揮者と伴奏者、そして歌との一体感がありました。ますます中学生らしくなってきました。1年生の普段の学校生活のいいところが出ていました。

1年生は、今回の合唱コンクールを通して、中学校の合唱のすばらしさを感じたことと思います。同時に、2年生へ向けて、新たな合唱のイメージができたことと思います。

次は、2年生です。1年生と同じように実行委員の立派な返事からスタートしました。開会のことばが終わると、保護者席から自然と拍手がわき起こりました。とてもいい雰囲気です。他の実行委員も素晴らしく、「大したもんだ」と感じました。

2年生の合唱は、どのクラスもよかったと思います。特に伴奏者のレベルが高かったと思います。その伴奏と指揮に合わせて、クラスのまとまりを感じさせる歌声でした。これからの可能性を感じさせる合唱でした。

2年生は、体育館で3年生の歌声を聞くことができたので、来年に向けて、すでに意欲が増しているのではないのでしょうか。「3年生になったら、あんな合唱をしたいなあ」と思ったことでしょうか。今の2年生を見ていると、大いに期待ができます。今から楽しみです。

そして、いよいよ3年生の登場です。いったいどんな合唱を披露（ひろう）してくれるのか楽しみにしていました。放課後の教室から聞こえてくる歌声を聞いていると、日に日に当日に向けての期待感がふくらんでいきました。

どのクラスも見事でした。さすがは3年生というハーモニーでした。指揮者、伴奏者と歌とが一体となって素敵な歌声が体育館中に響いていました。何よりも“心”が伝わってきました。3年生の合唱には、人を感動させる力がありました。歌は、人に思いを伝えます。会場みんなが、3年生の思いを受け取っていました。

3年生の合唱から、改めて合唱のすばらしさを感じることができました。短期間でこのような合唱ができるわけではありません。ここに至るまでの、それぞれのクラスでの生活があります。どのクラスにもドラマがあります。ドラマは人を成長させます。

山あり谷あり、トラブルありの日々だったはずですが、それでも、当日の本番で、あれだけの合唱ができるのは、最後は“ハート”でしょう。それが、一番うれしかったのです。中学3年生のときの合唱が、大人になっても、ずっと思い出として残っていてくれたら最高です。